

第2章 幕別町の概況

第1節 自然的条件

1 位置

十勝の中央部よりやや南に位置し、西は十勝の中核都市帯広市に、北及び北東は十勝川を境にして音更町、池田町に、東は豊頃町、南は大樹町と更別村に接し、面積は478平方kmとなっている。

2 地勢

(1) 幕別地域

幕別町の位置する十勝平野は、石狩平野につぐ北海道第二の平野で、主に丘陵地、台地により形成されている。平野の中央部を北西より南東に十勝川が流れ太平洋に注いでいる。

十勝平野の直接の基盤になっているものは、固結から半固結堆積物で第三系鮮新統に属する池田層である。

丘陵地及び台地は火山性岩石で第四系に属するローム、火山灰、軽石等の累積層である。各河川の流域は礫、砂、粘土などの氾濫原堆積物である。

北を十勝川、西を札内川、中央を猿別川と途別川が流れている。十勝川は大雪山系の十勝岳、札内川は日高山脈の札内岳を源としている。この他にも小河川が各所に走っている。幕別町を含めた十勝の地形は、中央を流れる十勝川に向かって船底型をなして低下している。

(2) 忠類地域

西部は、大樹・更別両町村の台地に向かって階段状に標高を増し丘陵地を形成しているが、一部緩波状地もある。東・南・北部の三方は森林資源の豊富な標高200～300メートルの山々に囲まれている。また、ほぼ中央部を北西から南東に当縁川が貫流し太平洋に注いでいるが、この流域及び西部地区はおおむね平坦で5,000haの農耕地が広がっている。

土質は、一部の若い沖積層を除いてほとんどが表層火山灰性土で、樽前B層火山灰を主体としており、層厚は15～20cmで、下層土は粘土質である。

3 気候

概況

本町の気候は、亜寒帯に属し内陸性気候である。夏の最高気温は36.7℃(平成29年)、冬の最低気温は-31.8℃(平成12年)であり、寒暖の差は大きい。日照時間は年間約1,900時間で、全国的にも多く、晩秋から春にかけて晴天日数が多い。年間降水量は1,000mm前後である。降雪量は道内でも比較的少ない地域で、最深積雪は70cm前後である。風は比較的弱いですが、5月下旬に異常乾燥に伴い、農作物に害をもたらすことがある。

4 気象記録

「資料編 1-6」のとおり

第2節 災害の概況

1 主要災害記録

「資料編 資料 1－7」のとおり